秀賞

最大級の愛と恩返しを

秋田県三種町立八竜中学校
３年　北林　和心

「トゥルルル、トゥルルル。」
母の仕事用の電話が鳴った。私は風呂場までドタドタ走り、シャワーを浴びている母に電話を渡した。「うんうん、そうですか。」「お薬まだ残っていますか。」すぐさま仕事モードに切り替わり、淡々とした口調で患者さんの相手をする母。私はこの人を、本当に尊敬しているし、心の底から愛している。もし、未来の自分になにか伝えられるなら「母に恩返ししてくれ。」この一言に尽きる。

母の仕事は看護師で、今は訪問看護の部署に勤めている。土日・祝日は基本休みだが、当番制というものがあり、もし患者さんから電話がかかってきたら、いつでもどこでも、なにをしていても訪問に駆けつけなければならない。私が夜更かししていた日も「ちょっと訪問行ってくる」と、夜遅くに仕事に出かけていったことがある。嫌な顔一つせず、面倒くさがる素振りも見せずに仕事に向かう母の背中は、いつもの何倍にも大きく見える。

私の家では、母、祖父母、愛犬、私の、４人と１匹が生活している。姉は社会人なのでもう家には居ない。そして父とは別居している。私が小学５年生の頃「出ていけ。」いつも温厚な祖母の、いまだかつてない怒鳴り声を聞いた。その怒りの矛先には私の父がいた。私はその騒ぎの様子を、遠くからそっとうかがうことしかできなかった。「離婚届も何度も持ってきたべ。」「子どもたちのことも、いらないって言ったべ。」母の絞り出すような声も響いていた。次々に耳へ入ってくる多くの事実に頭が追いつかず、涙があふれてとまらなかった。ひたすら号泣する私を、母は「ごめんね」と言って抱きしめてくれた。一番つらいのは、苦しいのは、母自身のはずなのに。母が離婚届を受け取らなかったのにも「子どもたちの成長には、まだ『父親』という存在が必要だから。」という理由が込められていた。母はどんなにつらくても、私たち子どもを最優先に考えてくれた。こんなに優しく強く、たくましい母は、地球上のどこを探しても、私の母以外に見当たらないだろう。私はそんな母を誇りに思う。

私の姉は、感情の起伏が激しい人間で、姉が学生の頃は些細なきっかけで姉妹喧嘩に発展することもよくあった。そんな私たちをなだめてくれるのも、母だった。姉が部屋に閉じこもり、抱え込んだストレスと闘っていたときも、母は臆せず姉と向き合い、寄り添い続けた。本当に、子ども思いのいい母親だと思う。

母は礼儀に関することや、道徳的なことに関しての指導が厳しかった。礼儀や道徳心は幼いときから母によって叩き込まれ、鍛え上げられたため、善い精神を受け継ぐことができたと思う。母からは、人として生きるうえでの一番大切な基礎を学ぶことができた。そのため、人から挨拶を褒めてもらったり、性格などの内面的な部分を褒めてもらったりすることも多々あった。母の教育は、勉強よりもはるかに重要で、学ぶ価値のあるものだ。母の教育を受けることができて光栄に思う。

家族の中で、だれよりも早く家を出て、だれよりも遅く帰ってくる母。残業によって、さらに遅い帰りになる日もある。よほど疲れているのか、母は９時過ぎには寝てしまう。平日は早寝早起き、休日は早寝遅起きの生活だ。我が家は、祖父母の年金と母の収入で成り立っているため、母の仕事の頑張りは実に大きい。父親からの生活費が振り込まれないため、一般家庭よりも経済的には豊かではないはずだ。だが私がこんなにも何不自由なく生活できているのは、やはり母のおかげだと思う。夜勤などの泊まり込みの仕事も多く請け負い、職場にも貢献していた。私は母のおかげで、習い事にも通えたし、自分のやりたいことにも積極的にチャレンジできた。ダンスやバスケにテニス、ピアノやそろばんに学習塾。これらに触れた経験は、今でも自分の中の大切な糧となり、力になってくれている。

さて、未来の自分よ。今そこに立っているあなたは、母の愛と葛藤の産物です。母の血が流れている「自分」に誇りをもって、力強く夢へと突き進んでください。そして、今度はあなたが、母へ恩返しする番です。母がくれた愛、人生、その全てに感謝し、最大級の愛情をもって母と向き合ってください。きっと未来の母も、今と変わらない笑顔、愛情であなたを優しく包んでくれるはずです。本当に、母の子に生まれてこれてよかった。この幸せを噛み締めながら、さらなる躍進を共に遂げよう。あなたは一人じゃないよ。頑張れ！　私！